

作文コンクール “Leading to the Future 未来に向かって～教師・夢・感動～”

2017年 最優秀賞作品「私の夢」

大阪府立高槻北高等学校 2年 松永日菜子さん

「介護福祉士になりたい」

私は、介護福祉士として働く母から、毎日「介護する」ということの大変さや楽しさを聞き、職場で中心となって働く母への敬意とともに介護職に就く夢を抱くようになりました。小学校の頃からずっとこの夢が変わることなんてないと思っていました。

高校に入学して数か月経ったある朝のことでした。登校中、自転車に乗っていた私はふとある物に目を留めました。それは支援学校の送迎バスでした。今まで見たことがなかった訳ではありませんでしたが、それほど気にすることはありませんでした。しかし、その時、なぜか「福祉の仕事って、お年寄りの介護をしたり、障害を持った人たちの生活を手助けするだけじゃないんだ、子どもたちを教育する仕事も福祉の大事な一つなんだ」と思い、支援学校の先生の仕事に興味を持つようになりました。

その後、私は支援学校の先生がどのようなことをされるのかや、支援学校の先生になるためには何をしなくてはならないのかなどを調べました。そうして支援学校のことは何も知らなかった私も少しずつ支援教育について知っていくうちに、支援学校の先生も将来の選択肢の一つと考えるようになりました。

高校二年生になった私は、教員になることを目指す生徒を対象とした教志コースに入りました。六月の実地実習では支援学校を希望し、初めて支援学校の中に入りました。七日間の実習で、インターネット上で調べるだけでは分からなかった支援教育の魅力を知ることができました。写真やイラストを用いた教室の掲示物、生徒の「できない」への先生の対応、ひとりひとりの発達段階に応じた授業など、実際に現場へ行かなければ感じとれないものばかりでした。私は、その日その日の子どもたちの心身の状態をしっかりと把握した上で、それぞれの課題に取り組む先生たちの姿に強い憧れを抱きました。私も将来、支援学校で子どもたちの可能性を広げる手助けをしたい、保護者の方たちに信頼され、子どもたちと真っすぐに向き合える先生になりたいと思うようになりました。

「支援学校の先生になりたい」

今、私はこの思いを胸に抱き、日々夢に向かっていきます。きっとまだ分からないことだらけだとは思いますが、支援学校の先生になりたいという強い気持ちを持っています。今からできることは何でもしておきたいと思い、たくさんの情報を取り入れるなどして努力しています。

数年後、きっと、支援学校を職場とし、先生として働いています。